

第10回 ヘレニズム時代

1 アレクサンドロス大王の東方遠征

・() はギリシア北部の国であり、マケドニア人はギリシア人の一派であるが、アテネやスパルタに比べると遅れた野蛮な人たちだと思われていた。



フィリッポス2世暗殺の黒幕が誰なのか、いまだに論争がある。くだらない理由の可能性も。

☆マケドニア王国（初期）（前700年ころ～）

◆ () (在位 前359～前336年)

- ・前338年、() で、テーベ・アテネの連合軍を破った。
→マケドニアは() を結成してスパルタ以外の全ポリスを事実上支配した。
- ・前336年、フィリッポス2世は、娘の結婚式に出席した際に暗殺された。



アレクサンドロス大王

☆アレクサンドロスの帝国（マケドニア王国）（～前301年ころ）

◆ () (在位 前336～前323年)

- ・少年時代に、哲学者として有名な() を家庭教師とした。
- ・父フィリッポス2世の後を継ぎ、() 年、東方遠征に出発した。
- ・前333年、() で、アケメネス朝ペルシアを破った。
- ・前331年、() で、アケメネス朝ペルシアを決定的に破った。
→前330年、最後の王() が部下に殺され、アケメネス朝ペルシアは滅亡した。
- ・アレクサンドロス大王は、そのまま() の北西部まで進撃した。
→アケメネス朝ペルシアを継承する巨大な帝国を築いた。
- ・各地に() というギリシア風の都市を建設した。



イッソスの戦いを描いたモザイク画

イタリアのポンペイで出土したモザイク画である。イッソスの戦いを描いたもので、愛馬ブーケファラスに乗ったアレクサンドロス(左)が、戦車に乗ったダレイオス3世(中央)に迫っている。



映画『アレキサンダー』

アレクサンドロス大王の生涯を描いた作品で、コリン・ファレルが大王役を演じた。ガウガメラの戦いのシーンは、非常に迫力がある。ちょっとグロいので注意。



2 アレクサンドロス大王の後継国家

- ・前 323 年、アレクサンドロス大王はバビロンで熱病にかかり急死した。
→大王の病死後、() が始まり、前 301 年のイプソスの戦いなどを経て、その領土は配下の将軍たちによって分割された。
※ディアドコイとは「後継者」という意味である。

- ☆ () (前 276～前 168 年)
 - ・老将軍アンティゴノスの子孫がマケドニアに建国した。



プトレマイオス
アレクサンドロスとは幼なじみであり、一緒にアリストテレスの教えを受けた。

- ☆ () (前 304～前 30 年)
都… ()
 - ・将軍プトレマイオスがエジプトに建国した。
 - ・東地中海まで領土を広げるなど、大いに繁栄した。
 - ・都に () という研究所を設立した。



アレクサンドリアの大灯台
世界七不思議のひとつとされ、その光は 50 キロ先からでも見えたとされる。地震で海の中に崩壊したため、現在は残っていない。

- ☆ () (前 312～前 64 年)
都…アンティオキア
 - ・将軍セレウコスがシリアを中心に建国した。
 - ・支配下のユダヤ人がマカベア戦争という反乱を起こした。

3 後継国家から独立した国々

- ・後継国家のうち、最大領土であったのはセレウコス朝シリアであった。
→ギリシア系のバクトリアとイラン系のパルティアが独立した後に弱体化した。

- ☆ () (前 255 年ころ～前 139 年)
 - ・ギリシア系住民が、アム川流域、現在のアフガニスタンを中心にして建国した。
 - ・ヘレニズム文化を持ち込み、() が誕生するきっかけとなった。
 - ・前 140 年ころ、遊牧騎馬民族トハラ（大夏）の侵入により崩壊した。

- ☆ () (前 248 年ころ～後 224 年)
◆ () (在位 前 247 年ころ～前 211 年ころ)
 - ・イラン系の遊牧民が、現在のイランを中心にして独立した。
 - ・漢代の中国では () と呼ばれ、西のローマとも激しく争った。



アルサケス
安息というの、アルサケスに漢字をあてたものである。
生涯については、わからないことが多い。

- ◆ミトラダテス 1 世 (在位 前 171～前 138 年)
 - ・パルティアの最盛期の王で、ティグリス川流域に () を建設して都とした。
 - ・224 年、同じくイラン系の () によって滅ぼされた。